

れんらく帳♪

2013-01-22 19:45:19
テーマ:「つばさ」の毎日



こんばんは！つばさです🏠

つばさへ到着したお友達は、荷物を下ろすと、れんらく帳入れにれんらく帳を入れます♪

家での様子、つばさでの様子をご家族と情報交換させていただいています🏠

その日の担当の先生から一言コメント♪

次月のご予定などもこのれんらく帳でやりとりさせていただいています♪

※お電話でその後の変更もちろん可能です📞

つばさ外遊びの2コマ

2013-01-22 19:34:55
テーマ:「つばさ」の毎日



春風公園

お久しぶりです！つばさです🏠

先週は雪がふったり❄️寒かったのですが、今日は午後からは少し気温が高かったですね☆

つばさの土曜日のご利用時には、近くの公園へ先生とお出かけします♪

公園の遊具で遊んだり、石ころを見つけたり、葉っぱを集めたり♪

T君は、言葉遊びをしながら、公園まで♪

聞いていて、好きな『音』や心地よい『言葉』ってありますよね
今日初めてご利用だったS君は、先生とお話ししながら、お弁当の時間まで、公園を探検しました♪
家の近所の公園とまた違った場所だと楽しいですね～♪

お弁当を食べた後は、それぞれ課題をがんばりました♪



お問い合わせ 月～土 9:00～18:00
☎ 0798-37-6788

つばさ通信 第16号

BLOG 節分

今日は春の節分、一年の始まりの日ですね。昨年は新しいことに挑戦する1年だったので今年は充実させていく一年にしたいと思います。ところで皆さんは日本に暮らしていて幸せですか？政権も新しく替わって経済にも少し日差しが見えてきたように新聞マスコミが報道していますが、まだまだ生活レベルでは恩恵を受けるには時間がかかりそうですね。また色々と将来の不安要素があることも確かです。でも海外に行くといつも感じるの私たちが当たり前のように思っていることが世界では全く違う事実です。毎年、イギリスの経済紙が発表する世界で平和な国のランキングで2012年に日本は世界で5番目に平和な国になりました。1億人以上の国民が住む国では1位です。永世中立国であるスイスでさえ10位ですから日本は本当に平和で安全な国なのですね。ちなみに東アジアでは韓国42位、中国89位です。このランキングからは、日本という平和な国に住む幸運を改めて感じるとともに、戦火に怯え、国に虐げられ、貧困に苦しむ多くの人々が海の向こうにいることを考えさせられます。

(Y.K)



調剤部門

- 尼崎つばさ薬局
- 甲南つばさ薬局
- 甲風園つばさ薬局
- 久寿川つばさ薬局

福祉部門



第3回神戸医療イノベーションフォーラムレポート



1月20日の日曜日、ポートピアホテルに到着して、まず圧倒されたのが会場の広さ！400人近い参加者が来るというのですからすごいですね。今回は第3回のイノベーションフォーラムで1回目2回目とかなりの反響があり、リピーターも多いと聞いていました。はてさて、「医療イノベーションとは？」「ITを駆使した医療の最先端のお話し？」でしょうか。期待にワクワクしながらの始まりです！

まず、開会の挨拶、そしてオーガナイザーの神戸大学大学院医学研究科特命講師の杉本真樹氏が登場。

杉本氏はipad手術や3Dプリンターと透明樹脂の医療への応用など様々な方面でご活躍です。「今日は普通の学会と違います。FB・ツイートなんでもありです。写真もOK」と仰る。周りを見渡すと、ペンとメモを持つ人より、ipadや、スマートフォン、iphonを片手にもつ人たちがばかり。

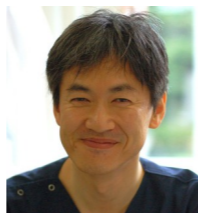
それでは、今回のつばさ通信はレポート風にまとめてみましたのでご覧ください。(H.S)



今薬局にどれだけの価値があるのか？ 狭間研至氏

最初の演者は薬剤師として一番興味があった、今バイタルサイン講習で薬局に革命をおこしているファルメディコ株式会社代表取締役の狭間研至氏でした。「薬局には年間14.5万人の人が訪問し、今や5,4万件ある薬局は重要な医療の現場です。でも2兆円市場の薬局に今どれだけの価値があるのか？」

と、少々お耳の痛いお話から始まりました。ではどうすればいいか……。薬局での「待ち」時間を「知る」へ変えたらどうか？例えば薬局での待ち時間にテレビで適切な医療のための情報を提供したらどうかと現在考案中だとか。また、患者さん（特に高齢者）は薬を飲みすぎている。その一因は薬剤のPDCAがうまく回っていないと仰る。つまり、簡単に言うと患者さんが常に飲んでお薬が本当に必要で副作用もなく合っているかという検証を薬局の薬剤師がするべきだということなのです。これは私も必要だと思いました。医師であり、薬局を経営する狭間先生が、それを推進してくだされば、もっと薬局が患者さんのためになる医療に変えていくことができると思いました。



認知症ケアのイノベーション 遠矢純一郎氏

桜新町アーバンクリニック院長である遠矢純一郎氏の講演はメモリーサービスによる認知症ケアのイノベーションでした。在宅医療では医師をはじめとした多職種の人が「患者宅」をあたかも「病室」であるように患者をサポートするのです。通常、訪問看護師や医師が訪問するのは週1.2回で、どんな食事をしているか、排泄は？病状は？という患者さんの日常的な情報は家族やヘルパーが担っている、そういった情報が連携ノートやFAXでは効率が悪いため、開発されたのがクラウド型地域医療支援システム（EIR）です。

EIRは、その患者さんに関わる多職種の人が、等しく日常生活情報やケア記録を入力出来て、観察項目に沿って入力しやすいようになっているとのこと。記録は時系列に配列され、重要や至急、通常のタグをつけることで、誰でも見やすくなっています。また写真に取って画像をアップすることが可能なので、例えば褥瘡の経過を写真で追うこともできるのです。

私も在宅訪問を行っている薬剤師ですが、未だipadが活用できていませんでした。写真にとって情報を残すことから始めてみようと思いました。



TEDに学ぶメディカルプレゼンテーション 杉本真樹氏

ここまでの先生方のプレゼンを聞いてみると、皆さん舞台上立って、観客の方を見て話をされていました。もちろんスクリーンには必要な画像やスライドが映し出されているのですが・・・次は杉本真樹氏によるプレゼンテーションスキルのお話でした。

経済的成功者には、考えを表現する能力・リーダーシップをとる能力・人々の熱意を引き出す能力が85%を占めている。まさにこれはプレゼンテーション能力なのです。聞いた人がいかに解釈して人が動くかと言う意味で熱意を引き出せる。杉本氏は自分をいかに表現できるかが大事で、それはShow and Tell「見せて語り、共有し、人を動かす」ことができる人が集団を形成し社会をかえていくのだと。「今までの医療の学会発表は決まったフォーマットに読み原稿でスライドの文字を読み上げるというものでした。これでは、つまらないので眠くなってしまいます。プレゼンテーションはプレゼントです。ギフトと瞬間という2つの意味があり、もらった人の笑顔とこの感動の時間を共有することがプレゼンテーションの醍醐味で、スタンディングオベーションにつながるのです。プレゼンでは観客力も大事で、そのプレゼンがどういう意義があり、それを自分のどういう価値にするか。観客をおもてなしすること、そして観客にも仲間意識が生まれたらより素晴らしいプレゼンになるのです。・・・その他、スライドの有効的な作り方やデザインなどなど、とても興味深いお話しをお聞きしました。また、杉本氏が感動した映画「渾身」のご紹介されました。

「本気で映画を作る事、テクニックや演出ではない本気な気持ちは相手に必ず伝わる」という渾身の映画監督である錦織良成の言葉に感銘をうけたと。杉本氏はそれを聞き、「私も本気で医療を変えようとこの何年も活動しています。本気の思いはきっと伝わると信じています」と。プレゼンテーションを終えた杉本氏へ、スタンディングオベーション！



スペシャルゲスト いとうまい子さん

感動のプレゼンの数々で、5時間はあっという間に過ぎました。

情報交流懇親会ではスペシャルゲストの女優いとうまい子さんと、皆一緒に写真を撮ろうと殺到しました。早稲田大学で今医療と健康について学んでいらっしゃるのだそうです。

そして、本気で医療に取り組もうという思いが強くなりました。来年も必ず参加したいです。

第3回神戸医療イノベーションフォーラム USTREAM録画アーカイブはこちら。
<http://www.ustream.tv/channel/第3回神戸医療イノベーションフォーラム>

